

《緩和ケア市民公開講座》 地域で支えるがん緩和ケア 「笑いの一服」のアンケート結果

日 時：平成23年2月26日（土）13：30～16：00

場 所：鶴岡市中央公民館

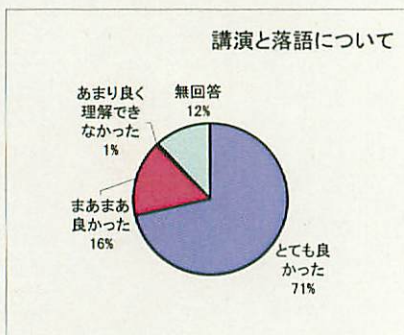
講 師：樋口 強 先生 全日本社会人落語協会副会長・作家

講 演：「最近、あなた笑えてますか」 落 語：「いのちの落語」

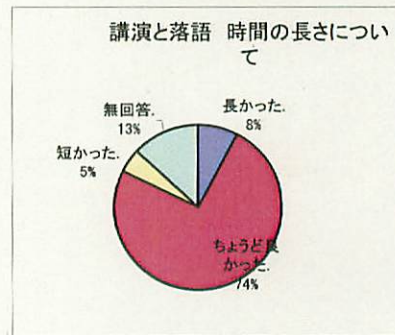
座談会：劔持博子さん 秋山美紀さん 和泉典子先生 叶野明美さん

参加者数：412名 アンケート協力者：321名

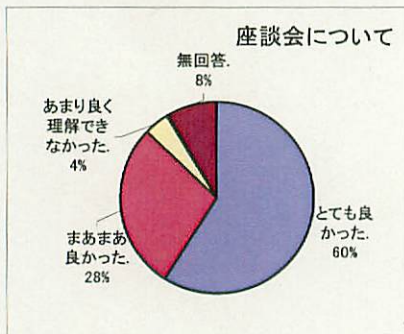
(1) 講演と落語についてうかがいます。
内容はいかがでしたか。



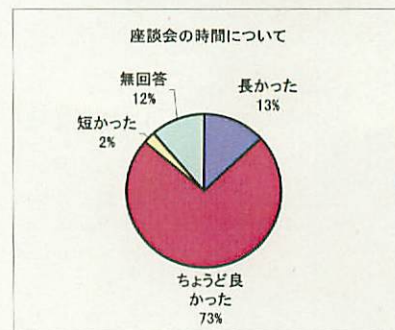
(2) 講演と落語についてうかがいます。
時間の長さはどうでしたか。



(3) 緩和ケア座談会について伺います。
内容はいかがでしたか。

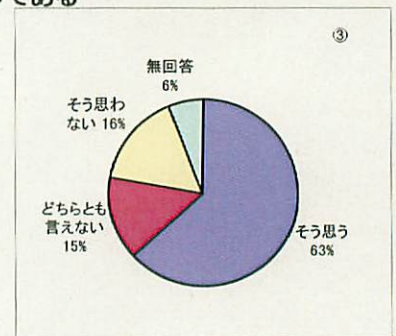
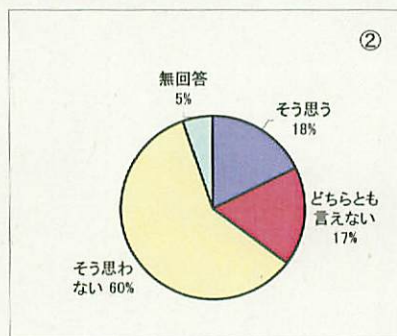
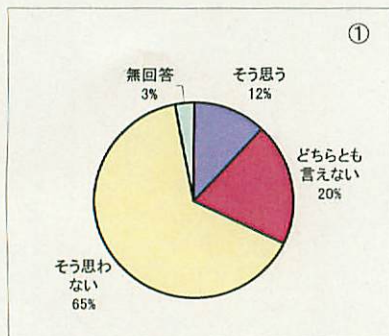


(4) 緩和ケア座談会について伺います。
時間の長さはどうでしたか。

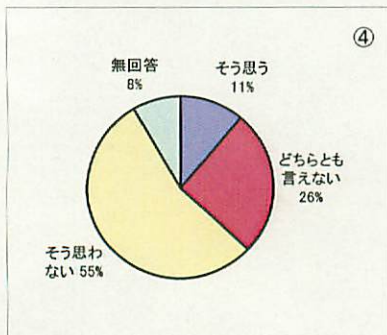


(5) 緩和ケアや在宅医療についてのあなたのイメージについて うかがいます。
あてはまるものをお選びください。

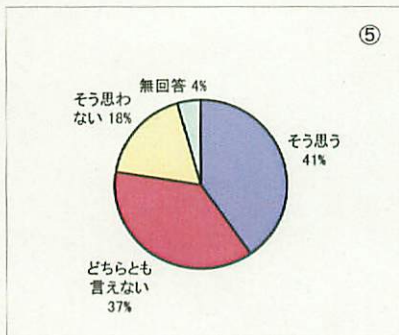
- ①がんになっても病名を告知されたくない ②緩和ケアとは、末期の患者さんだけが受ける医療・ケアである ③緩和ケアとは、化学療法や放射線治療など、がんに対する治療と一緒に行うものである



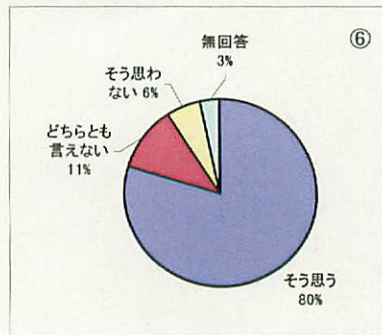
④医療用麻薬を使用すると中毒になる



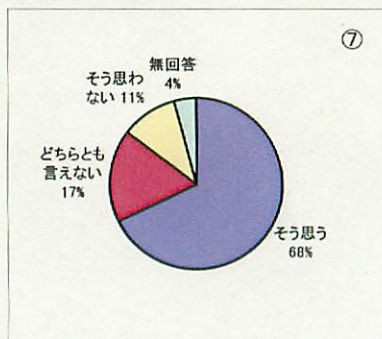
⑤あなたが、がんだったら、亡くなる最期は自宅で過ごしたいと思いますか



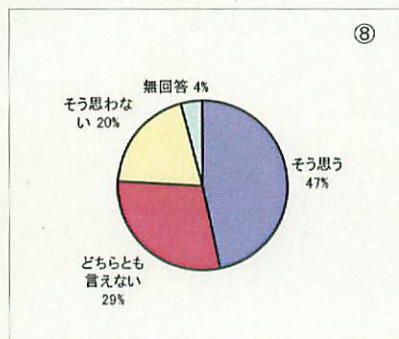
⑥自宅で療養することは、介護してくれる家族に負担が大きい



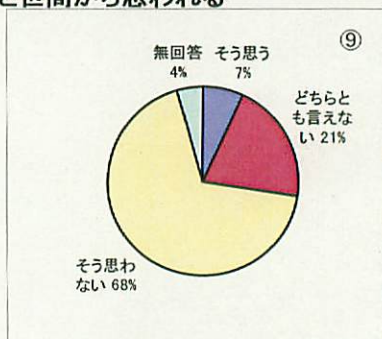
⑦自宅では、症状が急に悪くなったときの対応が不安である



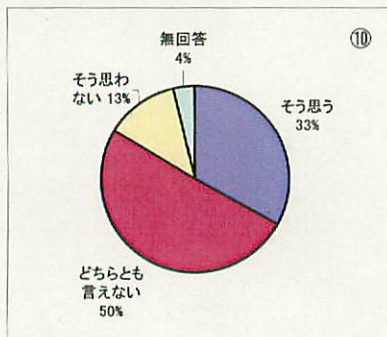
⑧自宅では、十分に苦痛を和らげることができない



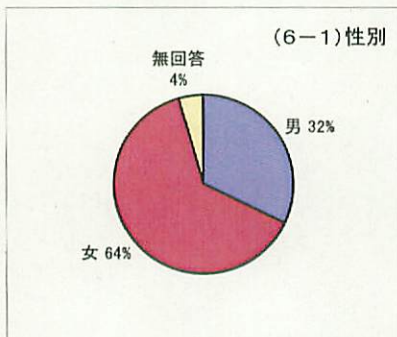
⑨自宅で最期を看取することは、家族が患者に十分な医療を与えていないことになると世間から思われる



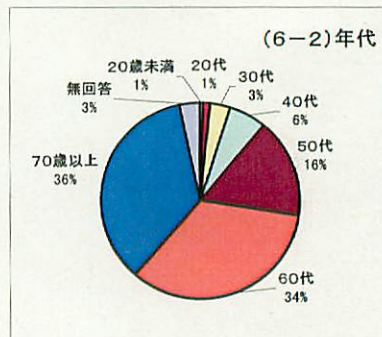
⑩この地域ではがんになっても安心して過ごせると思う



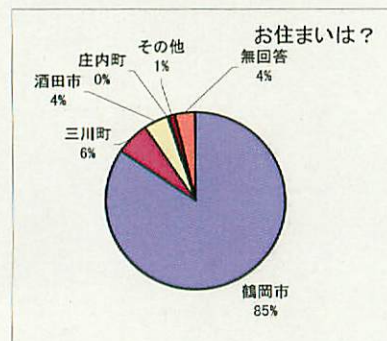
(6)あなた自身についてお聞きします。
(6-1)性別は



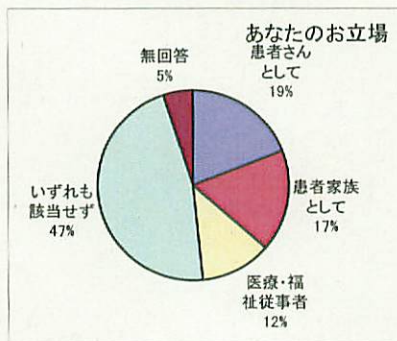
(6-2)年代は



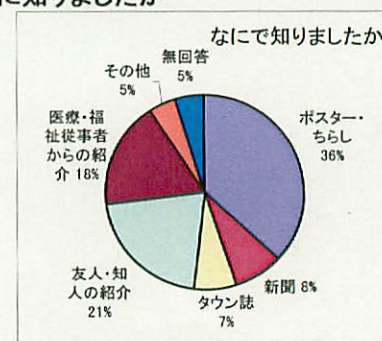
(6-3)あなたのお住まいを教えてください



(6-4)あなたのお立場は？



(7)この緩和ケア市民公開講座をどのように知りましたか



(9)自由記載欄(講演・座談会についてのご意見、ご感想、ご要望など) 別紙にて報告

「笑いの一服」 自由記載欄まとめ

ー 全体についてー

体験談を聞いて力強い緩和ケアのある事を知りました。今後の参考にしたいと思います。

(がん＝痛い＝死)のイメージであった。
そのイメージを変えることができ、多少不安が和らいだ。

大変面白くて、先生の本当の自分の事についてお話をきかせて、本当に有意義な講話でありました。
剣持さん他、スタッフの方々のケアに対する大事な仕事も良くわかりました。
たいへんありがとうございました。

老いてからの余生を楽しく充実したものにするためのヒントを取り上げてほしい。
(ユーモア的に)

今日は、ありがとうございました。

自分の身内もガンでなくなっていますが、緩和ケアという言葉は知っていても内容に関しては全く無知でした。
今日の講演会、大変良かったです。

人を助ける難しさにめげず、真正面から向かう姿勢がとても心強く、多くの人の悩みを払い、勇気付ける方向性に感動しました。
ここで、苦しめる人に、何をしてあげられるかとの問いかけところは、今後とも共感し大いに広めてほしいです。

緩和ケアについて詳しくは知りませんでした。
今日の座談会をお聞きし、今後お世話になるかもしれない事に期待を持つことができました。
サポートして下さる方、皆さん一生懸命で嬉しく思いました。
いつか、お世話になるときは、どうぞ宜しくお願いします。

より、一層笑いになる話を研究し、頑張ってください。
今日の話はまあまあ面白くありがとうございます。益々の研究により益々笑いを腹のひっくり返るほどの笑い、それこそが医療効果のある笑いでもあり、万人に対してプラスになり健康維持になります。
健康維持、そして完全にガンの治療にもなり笑いの普及をどうぞ宜しくお願いします。
ガンや病気を完全に消滅させるために是非宜しくお願いいたします。
私自身も友達と共に治療にも匹敵する笑いを最大に頑張ります。

本日はありがとうございました。父がガン治療しているので家族としてはプラスになった。これからも定期的に開講してもらいたい。

初めて参加して、とてもわかりやすく楽しく聞くことができました。
笑いの効用は大きいし、明るい家庭にしていきたいと思います。
緩和ケアを利用させていただきたいと思っています。
今後も続けてほしいです。寸劇も観たかったです。

今回、初参加です。いままで仕事の都合で参加できませんでした。
これからも毎年続けてください。

大変良かったです。ためになりました。

ー 全体についてー

私は平成18年に胆のうガンの手術と、平成22年に胆管の手術を受けました。進行ガンとの事で当時は余命はどの位あるのか、非常に不安で他人には手術のことは隠して通してきましたが、5年経過した事により、今は他人にすべてを話せる様に、少しでも、自分のガンが治療その他の事を役に立ってもらいたく気持ちの変り様に驚いています。家族、特に主人には、感謝しております。二人暮らしの私達は何がなくても無理に笑うように努めて生きたいと思います。

病気にはならない様、日々食べ物にも注意していますが、もし、がんになったら、ちゃんと向き合える様にして行きたい。一人で悩んでも解決にはならないと強く感じた。

参加できてとても良かった。

私はがんの告知を受け(大腸がんステージⅢ)手術。その後抗がん剤を服用しております。
日本海総合病院で緩和ケアにも早期がんの頃より登録いたしております。自分では現実を受け止め、穏やかな気持ちで治療を受けております。でも、痛い。苦しい。は、できるだけ緩和していただけるようお願いしております。自分を信じ、まわりを信じ、一日一日を大切に生きたいと思います。

素晴らしい企画でした。

今後もこのような講座を企画してほしいです。

緩和ケアの大切さを知りました。
ありがとうございました。

今年の式次第はとても良かったです。緩和ケア座談会に、よくぞ本人が参加されて皆さんにお話して下さった事、感謝いたします。貴重な体験のお話でした。いかに悲しいが、それ以上に悔いのない毎日だったことがうかがえます。落語も笑いありで元気もらいました。私の体にNK細胞が増えました。また来年来ます。是非やってください。
樋口さんに会いに来ます。

わかりやすく、聞きやすかった。

家族または本人がガンと言われた時から不安、心配がつきまわっていましたが、病院では教えてくれない、または聞けないことなども沢山あり、良かったと思います。
ガンを学びながら、知りながら、楽しく過ごす方法があるということを知り、希望が持てました。

緩和ケア座談会を聞いて、感動し、少し安心しました。いのちの落語もまた、聞きたい。
楽しかった。

緩和ケアということ、理解できて本当に良かったです。
勉強になりありがとうございました。

ちょっと肌寒かったが、話を聞いて笑えたおかげで体がポカポカになりました。
ぜひとも、来年も聞きたいです。
私も体を大切に笑っていたいです。

がんのイメージが変わりました。
今まではかかりたくない病気No1でしたが、2人に1人がかかるなら・・・
仕方ないかと思えるようになりました。(今すぐは困りますが・・・)
そのときは緩和ケアのお世話になりたいと思いました。

少し、寒かったが、話を聞いて心があたたまりました。
また、こういう会があったら参加したいと思いました。

一 講演と落語について

ヘルパーをして3年目ですが、詳しく緩和ケアを知ることが出来て今後の仕事にも役立てたいと思います。樋口先生の落語も大変ありがたく、私も前向きにこれから生きていこうと思います。

人間味のある先生のお話に感動しました。
とても良かったです。

樋口先生の講演と落語はとても良かった。
座談会では、涙が出るほど感動しました。患者の家族として辛い思いを話してくださった劔持さんに拍手です。また、和泉先生、荘内病院でのお仕事が多忙にも関わらず、医師代表として素晴らしいお話を聞かせてくださってありがとうございました。

3年間連続で催したことは素晴らしいことです。私も今、がんかもしれませんので、これからも毎年この種の講座をしてください。
お願いいたします。
樋口強先生の人材、人柄には感動させられました。

えー、どこが病気なの？ウソでしょう。この笑顔、この笑い、そして今日は電車で..
そして立ってお話してる。きっと裸になっても傷なんてないと思う。
我慢なんてしていない。そんな様子なんてどこにも見えない。
ここへは、主人と二人で来たけど、夜はガンになった友人とコンサートへ。
友人はカラオケにも行ったり、私の同級生とドイツへも。たまにがん患者の方と横浜へ行って歌ったり、サークル活動等々、精力的に(楽しいことを)一生懸命にやっております。
だから、元気です。私と文通もしております。それを支えるご主人様も一生懸命です。
本人の気持ちもすごいなあと思います。
また来年もお元気で会えることを楽しみにしております。
余談になりますが、私67歳。歩いて8年。日々1時間、自分の体力を試したくて、先日20kmを歩き、満足しております。でも、これ位かなと思いました。血糖値が少し高いので、これからも続けたいと思います。
サークルも色々やっています。乱筆で失礼します。
樋口先生、頑張ってますね。
鳴り物の音、良いね！この辺りでは聞くことができません。これを聞いているだけで、良き抗がん剤！また聞かせてね。

落語がこんなに楽しいとは思ってませんでした。
和顔得世～笑顔をたやさず、今を精一杯生きていきたいです！
ありがとうございました。良い講演会でした。幸福なときを過ごせました。
久しぶりにお腹の中から笑えました！

一 座談会について

経験者の話、泣けました。いい話でした。
和泉先生の涙、ステキでした。
私も泣けましたよ。

でも、主人が亡くなった時は、涙が出ませんでした。どうしてかしら?? アッハハ

体験談を聞いて力強い緩和ケアのある事を知りました。今後の参考にしたいと思います。

座談会の内容が、実際がんと闘われた家族の皆さんの体験談だったので、より身近であったし、心にせまるものがあった。緩和ケアのあり方も再認識できたとし、本人はもちろん家族、知人などにも広めていきたいと思います。
これまでも公開講座には参加しましたが、色々な工夫をされて寸劇などとても参考になります。
実際、病院見学など可能なのでしょうか。支障のない程度に。

－ 座談会について－

座談会はとても良かったです。特に緩和ケアが剣持さんの奥様を通じてよく理解できました。医師も一人の患者の生きざまに、あんなに涙してくれるのですね！
自分も再発したら進んで安心してゆだねようと思います。
樋口先生も最高です!! 来年も無事で参加したいと思います。

座談会、勝手に涙が出て止まりませんでした。我々を取り巻くバックグラウンドがそのまま緩和ケアのような錯覚に落ちるくらい身近に感じ、心強く思いました。
笑い。笑わせる。とにかく、笑う。

座談会がとても良かった。
緩和ケアのサポートについて理解が深まった。患者家族はもちろん、医療で支えてるチームのメンバーの活動のサポート体制の中身や苦勞が良くわかった。

剣持さんのお話にとっても感激しました。
自分も家族ががんになり、誰でもなる病気なんだと実感しています。
再発にビクビクしている毎日ですが、違った明日を迎えられそうです。

緩和ケア座談会を聞いて、感動し、少し安心しました。いのちの落語もまた、聞きたい。
楽しかった。

座談会・・・良いことだけでなく欠点も教えてほしかった。

座談会。言葉がハッキリなくて聞き取りにくかった。
言葉は明確に!!
出囃子が長すぎる(3分)

座談会については、カンファレンスなど横文字といいますが、わかりにくいところがあった。

折角のスライドがうまく活用されていない。
座談会方式は正直わかりづらい。

講演は大変勉強になりました。
緩和ケア座談会は、声が低く聞きにくかった。

－ 要望・意見－

寸劇を観てみたいです！

もう一度見たいのが、「寸劇」是非、よろしく！

介護者の精神的ケアの重要性にも取り組んだ連携ケアには感心した。
患者本人も大切であるがそれを助ける周囲への対応もまた力づけてほしい。
支援を下さい。

鶴岡は、がんのスーパー特区になっております。
慶応大の先端研と「からだ館」が中心となり早期発見治療法などを研究しております。
そちらの方とも提携して予防をする、」がんの病気になったらこのように緩和ケアする等
すみ分けをはっきりして連携する。
それにしても、がんの撲滅は現在では不可能に近い訳ですから、なおさら大切であると考えます。
がん患者と一緒に生活する家族についての話も聞きたい。

認知症についてのお話も聞いてみたいです。

－ 要望・意見 －

今回の事例には福祉は入らなかったのですか。
在宅において、ホームヘルパーの利用とかもある事と思います。

携わったそれぞれの職種の方が実際に何を行い、どう支えて来たか。
患者の心の変化や死への恐怖をどう支えたのか。
話を聴きたい。

終末医療と尊厳死についての話が聞きたい。

認知症 地域での支え合いについて聞きたい。

元気なうちのがん対策の話なども講座で必要である。

～今後希望するテーマ～

慶応大先端生命研での最新研究(だ液、1滴の血液からガン診断を、ここ鶴岡で更に実効あるものとする為、市民対象多人数のデータがとれる検診を、市、県、国への働きかけをして可能にするような講座を願いたい。)

検診の実施もお願いしたい。早期発見と最新技術の早期運用を!!

緩和ケアという言葉が、この会場に来た人は理解したでしょうが、聞いたことがない人は関係ないことと思いがちではないでしょうか。

何を緩和するのか、ケアとは何か。添え書きがあったらと思います。

文書を最後まで読めば理解するのでしょうか？

母を92歳で亡くしましたが。

最近の荘内病院の入院等について、部屋が空いていても入院させない(救急のためと言っているが??)信じられない!!納得がいかない時がある。

術後1週間で退院の人もあるが、私達から見ても変だと思う事がいっぱいありました。

今回の座談会では亡くなった方の事例でした。“緩和ケア＝死”と思った人が多かったのではないのでしょうか。今度は生きる力をもらえるような事例はどうですか？

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川と書いてあるが、事務局の場所が総ての文章に入っていないのが、今日参集の方々が所在地を知らない原因ではないか？

今回は講演はもちろん、座談会もとても良かったです。

座談会の質疑応答の時間も取れたらよかったのではないのでしょうか

体験をした人達を招いたシンポジウム開いてほしい。

もちろん講演会を含めて。

緩和ケア・・・に出た方は、正直恵まれている。

私の父はがんになっても緩和ケアを受けられなかった。(荘内病院)

いまでも、つらい。私自身は乳がんになり抗がん剤治療もして、今は元気になったが、まだまだ不安はある。

医療機関の横のつながり、情報の共有がもっとスムーズにできると、残り時間の少ない患者や、その家族とのコミュニケーションが早くとれ、一歩踏み込んだケアが出来るように思います。

－まとめ－

入場者数 412名 昨年度 516名（－104名）

各地で行われた講演会やイベントと重なった。整理券を複数もらう人が多く見うけられました。他の人にあげる目的の方が多かったのではないかと思います。（整理券をもらった人が必ずしも来場したわけではないと思われる。）整理券のなくなるスピードが速かったので、配布をセーブした部分もありました。昨年度、苦情が多く寄せられた駐車場については、市役所からの往復バスを用意しましたが利用者全体で18人と、思ったより少ない結果となりました。入場者各自で対応したものと思われました。

大視聴覚室でも鑑賞できるように準備をしたが、実際利用した人は、数名であった。整理券を持たない入場者は当初、大視聴覚室での鑑賞という予定であったが、会場の混み具合を見て市民ホールへ誘導しました。

アンケート結果から全体的には好評で、入場者の方には、緩和ケアへの理解が得られたと思われました。緩和ケアのイメージという質問の部分から自宅療養に対しての不安が多く見うけられました。

樋口先生の講演と落語については昨年に引き続き好評でした。

緩和ケア座談会については、「よかった」「感動した」との声が多かったが、「聞き取りづらい」「わかりづらい」等の声もあり、今後は見せ方により工夫が必要かと思われました。

座談会の内容から、寸劇が見たいとの声が多くありました。ほか、質問時間がほしい。福祉の関わり方を知りたい。経験者の話が聞きたい。などのご意見がありました。

来年度については既に11月17日（土）に中央公民館を確保してあります。企画については啓発WGにて検討する予定です。